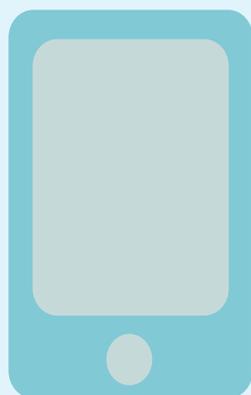


ICER

九州大学附属図書館付設教材開発センター一年報

2018



Innovation Center for Educational Resource

目次

はじめに	02
組織図	03
部門紹介	04
メンバー	05
研究紹介	06
プロジェクト紹介	23
MOOC 大規模公開オンライン講座	24
文学部 日本史学(宮中儀礼)を対象とした教材開発	26
文学部 中国文学を対象とした教材開発	27
医学部 医学科目を対象とした教材開発	28
放射線治療のためのセットアップトレーニング支援システムの開発	29
代表的研究者紹介ビデオ制作	30
その他の教材開発の取り組み	31
活動紹介	32
講義動画の撮影・編集・公開	33
FD講習会開催	36
教材開発支援機材	37
学会・イベント等	38
刊行物	44

はじめに



教材開発センター長 岡田 義 広

2018年度は2011年4月に教材開発センターが設置されて8年目となります。2014年度まで4年間センター長としてご尽力いただきました藤村 直美先生(情報統括本部・特任教授)からセンター長を引き継ぎ4年目の年となりました。2014年4月から専任教員としてご尽力いただきました安西 弥生 准教授が3月末で本センターをご退職になり、谷澤 亜里 助教が4月1日付けで本センターから総合研究博物館に異動されました。また、2013年度からテクニカルスタッフとしてご尽力いただきました河野 由紀子さんが契約満了でご退職となりました。このように昨年度末は寂しい気持ちでしたが、大井 京 准教授と芳賀 瑛 助教が4月1日付けで着任され、また、2017年11月に全学の組織として教育改革推進本部が設置され、5つの部門の中の1つである教育方法・教材開発部門の実働部隊としての役割を本センターが担うことになり、これに伴い、坂上 康俊 先生(人文科学研究院・教授)と築山 能大 先生(歯学研究院・教授)に4月1日付けで協力教員として加わっていただき、新しい体制で今年度を向かえました。さらに、退職された河野さんの後任として田中 啓太さんが11月1日付けで着任されました。このような体制で本センターの業務を遂行して参りました。

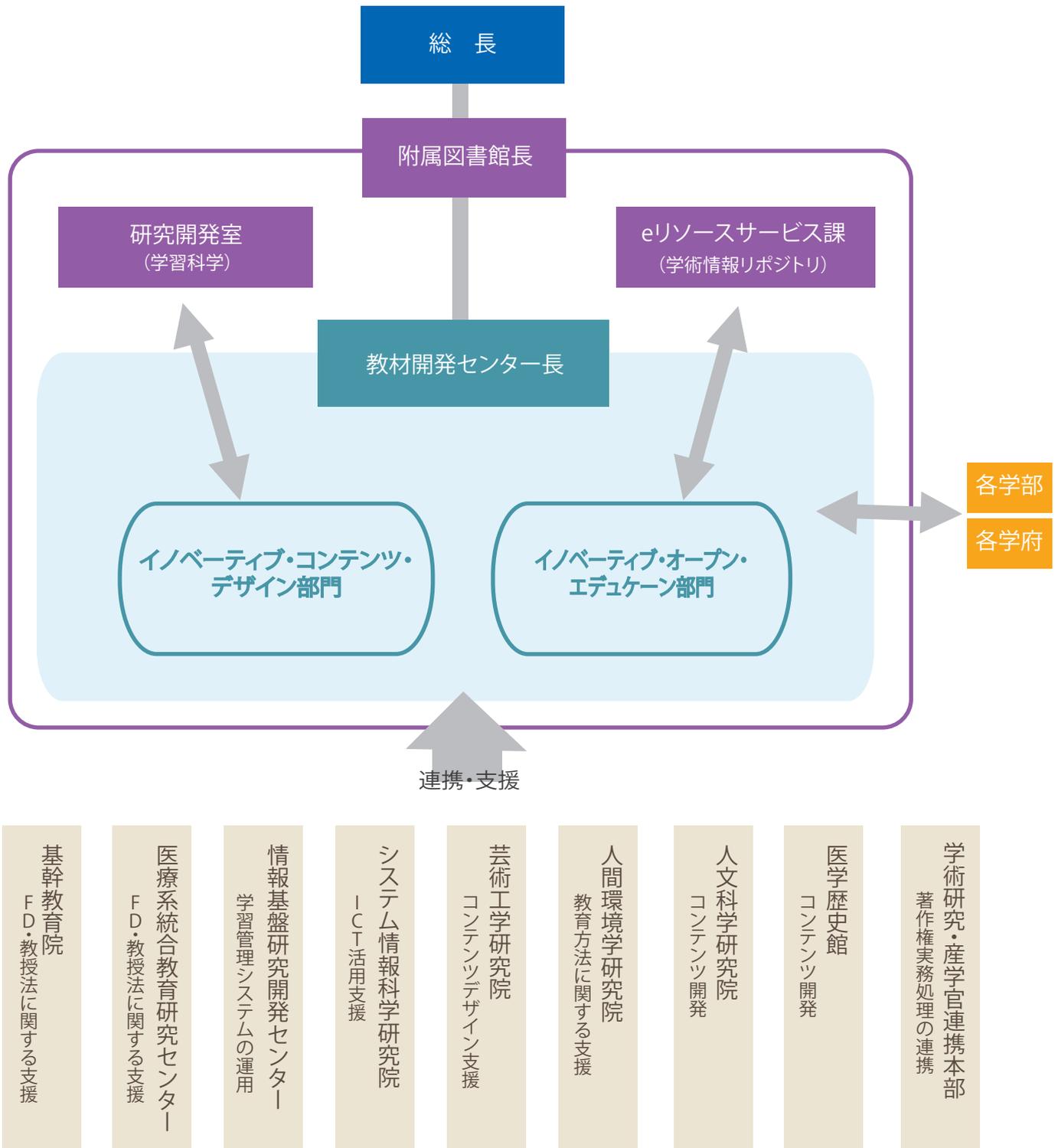
教材開発センターの主な業務は、講義等ビデオの撮影・編集・公開、MOOC(Massive Open Online Course)の制作、本学代表的研究者紹介ビデオの制作、ICTを活用した電子副教材の開発およびその支援、著作権等電子教材の開発に係る各種講習会の実施です。新しい教職員体制でしたが、4～5月に集中した各種講習会、基幹教育セミナーや基幹教育院大学院講義プロモーションのビデオ制作等乗り切ることができました。5年目となるMOOC制作では、昨年度に制作した「昆虫学入門 -多様性を探る- Exploring Insect Biodiversity」(総合研究博物館・丸山宗利准教授)を7月23日～8月20日にJMOOCから開講しました。受講者数は、1606名に達し、修了率は50.9%という非常に素晴らしい結果となりました。年度末には、新しいMOOC制作「豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に—」(工学研究院附属アジア防災研究センター・三谷泰浩教授)の取組みを開始しました。また、3年目となる本学代表的研究者紹介ビデオの制作は、毎月2～3件の公開を目標に実施して参りましたが、今年度末現在で代表的研究者の全紹介ビデオの撮影編集を終了いたしました。来年度は、第二期の取組みを開始する予定です。さらに、ICT活用電子副教材の開発では、これまでに開発した医学教材の英語化の取組みや、前年度に引き続き日本史学「宮中儀礼(除目)」・中国文学「漢文(史記)」の対話型ウェブ教材の開発、放射線治療装置操作トレーニング教材の開発等を継続実施しました。

今後も、学内の各種センター・部局等との連携を深め、学外の動向等も調査しながら、本学の学習環境の向上を目指して活動してまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜れましたら幸いです。

組織図

ICER

九州大学附属図書館付設教材開発センター
Innovation Center for Educational Resource

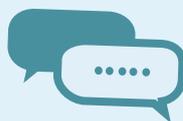
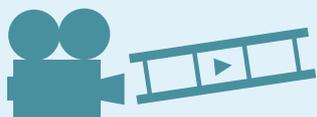


部門紹介

■ イノベティブ・オープン・エデュケーション部門

知の公共化による自律的な学習者を養成する教育方法と電子教材の開発

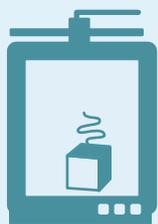
- 講義等ビデオ教材、代表的研究者紹介ビデオ、MOOCの制作
- インストラクショナルデザインに基づく教育方法、電子教材の開発
- 多彩なチャンネルによるビデオ等教材の公開
(OCW, YouTube, iTunes Podcast, QIR, 研究情報システムなど)
- 著作権に関する電子教材開発者向け講習会等の開催



■ イノベティブ・コンテンツ・デザイン部門

最新ICTを活用した魅力ある電子教材の提供と開発支援

- 対話型3次元マルチメディアや競争原理(ゲーム性)の活用
- スマートデバイスやデジタル放送等の新技術に対応する教材の開発
- コンテンツの再利用と再編集を可能とする基盤技術の研究開発
- 高大連携による対話型電子教材の開発とその支援



メンバー

専任教員

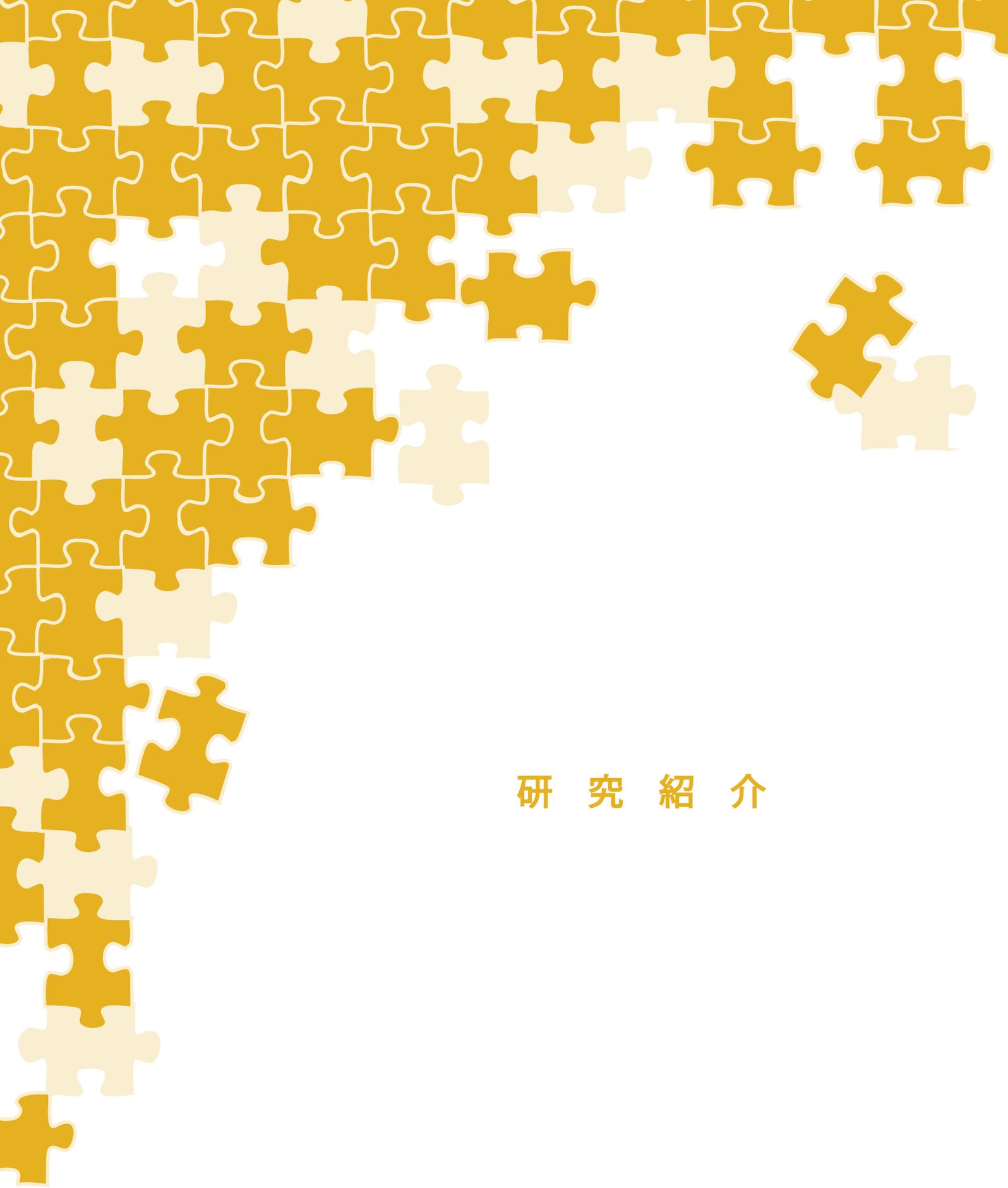
センター長	岡田 義広	大学院システム情報科学府担当
准教授	大井 京	
助教	芳賀 瑛	
	石 偉	

協力教員

協力教員	坂上 康俊	人文科学研究院 教授
	三木 洋一郎	基幹教育院 教授
	築山 能大	歯学研究院 教授、医療系統合教育研究センター長
	金 大雄	芸術工学研究院 教授
	松隈 浩之	芸術工学研究院 准教授
	池田 大輔	システム情報科学研究院 准教授
	金子 晃介	サイバーセキュリティセンター 准教授
	菊川 誠	医学研究院 講師
	麻生 典	芸術工学研究院 助教

運営委員

委員長	岡田 義広	教材開発センター長
委員	宮本 一夫	附属図書館長
	大井 京	教材開発センター 准教授
	三木 洋一郎	協力教員/基幹教育院 教授
	川原 弘一	学務部長
	渡邊 俊彦	附属図書館事務部長



研 究 紹 介

活動概要

「3次元グラフィックス応用ソフトウェアに関する研究」

ソフトウェア部品の再利用性を高め、アプリケーションソフトウェアの開発コストを下げるためには、どのようなコンポーネントをどのようなフレームワークで結びつければよいかというソフトウェアアーキテクチャーの研究を行っています。特に3次元CGアプリケーション開発支援のためのソフトウェアアーキテクチャーの研究を行っています。また、専門の知識のない人にも使える人にやさしいインターフェースをもつ計算機をつくりたいと考えています。ソフトウェアアーキテクチャーの側面から研究・開発を行っています。さらに、インターネットの普及により、時間や場所に制限されることなく、種々の情報を容易にやり取りできるようになりました。計算機により支援される種々の知的作業を複数の人で協調して行える環境をつくりたいと考えています。最近では、ビデオゲームの開発支援環境やデジタルTVのデータ放送コンテンツ開発、教育用コンテンツ開発と学習者ログデータ可視化、および博物館におけるデータ提示技術やVR(Virtual Reality)/AR(Augmented Reality)の応用システムに関する研究開発を行っています。

■ 主な研究テーマ等

3次元グラフィックス応用ソフトウェアに関する研究

キーワード:ソフトウェア部品化,分散システム,ヒューマンインターフェース,コンピュータアニメーション,情報可視化

活動概要

「ICT教育・学習と言語・非言語コミュニケーションの認知メカニズムに関する研究」

ICT(Information and Communication Technology)を利用した教育を対象として、教材と教育技術の開発、効果検証、および改善という実践と、その認知メカニズムの解明という基礎研究の両側面について、脳活動測定を含めた実験心理学の手法と、学習ログの分析等のラーニング・アナリティクスを活用した研究を行っています。最近では、大規模な公開オンライン講座であるMOOC (Massive Open Online Course)における講義動画の学習に関する認知メカニズムと教材改善の研究を行っています。また、言語・非言語コミュニケーションの認知メカニズムについても、二言語併用やジェスチャーの機能などに注目して研究を続けています。近年では特に、第二言語の運用と学習においてジェスチャーが果たす機能とその神経基盤に関する研究を行っています。

■ 主な研究テーマ等

学習ログと脳活動分析に基づく効果的な学習フィードバック方法の開発

ジェスチャーによる発話の促進効果とその神経機構

日本語と中国語の二言語併用者における言語間の干渉を低減する脳基盤の解明

キーワード:ラーニング・アナリティクス, 教育・学習におけるICT活用, ジェスチャー, 二言語併用, 神経基盤

活動概要

「センシング技術を用いた学習『過程』の定量化、及びAIによる学習行動の解析」

先端のセンシングデバイスを活用し、学習者の生体情報や多様な学習ログを基に学習の過程における行動の分析、および結果を蓄積、フィードバックする学習支援システムの開発研究を行っています。「アクティブラーニング」をはじめとする新しい教育手法の効果の検証においては、成果物などのアウトプットだけではなく、学習過程における学習者の内面的変化を定量的、かつ自動的に評価することが重要です。学習過程を評価する有効なツールとしてセンシング、AI(機械学習)、に着目しており、評価の指標となる特徴量の抽出や、自動評価システムを開発することで、次世代の教育環境の構築に貢献したいと考えています。

近年では特に、機械学習をはじめとするAIによる学習の評価と、実際の教員による評価との差異について関心を持っています。また、VRを活用した教材開発、学習の可視化についても研究を行っています。

■ 主な研究テーマ等

視線情報と機体操作ログに基づくVRフライトシミュレーション評価システムの開発

360度カメラを使用したグループワーク評価支援システムの開発

生体情報を活用した技能習熟支援システムの開発

キーワード：学習過程の解析、AIによる学習評価、生体情報計測、ラーニング・アナリティクス、

活動概要

「ICT技術を用いた電子教材の開発とユーザの学習活動分析に関する研究」

ユーザの興味を惹くことにより学習意欲の向上が図られるため、ICT(Information and Communication Technology)技術を用いたユーザの興味を惹く電子教材の開発と評価を行っています。主に、Linked Dataを活用し、2Dと3Dグラフィック技術と360度カメラなど先端デバイスを用いたVR(Virtual Reality)とAR(Augmented Reality)のウェブ教材の開発を行っています。また、電子教材の開発効率を向上するための電子教材開発フレームワークの提案と評価に関する研究も行っています。さらに、作成した教材を用いた学習時に、ユーザの学習活動データを収集してディープラーニング技術により可視化分析し、その分析結果に基づき電子教材を改良する研究も行っています。その他として、学習効果を検証するためのクイズを自動生成するフレームワークの提案と評価の研究も行っています。

■ 主な研究テーマ等

ICT技術を用いた電子教材の開発とユーザの学習活動の分析に関する研究

キーワード: E-learnin, ラーニング・アナリティクス, ヒューマンインタフェース, コンピュータアニメーション, 情報可視化

活動概要

研究面では、律令国家の成立・展開と中世国家への変容過程を、主として制度史的な側面から追究している。より具体的には中国法典の継受と固有法ないし慣習との緊張関係を基軸に据えて、日本古代の官僚制や収取制度の歴史的な位置づけをめざしている。

教育面では、上記の研究成果をもとに、基幹教育においては歴史学入門、文学部人文学科歴史学コースにおいては、講義と演習・実習を担当し、大学院人文科学府歴史空間論専攻日本史学分野においては、特論と演習・博士演習、および領域横断ゼミ、論文指導を担当している。

社会活動としては、文化財等に関する多数の学外委員会において、委員として研究・指導・助言にあたり、また、教科書その他の執筆等を通じて、研究成果を広く一般に公開している。更に日本学術振興会学術研究センターの専門研究員として、主として歴史学・考古学・博物館学等の分野での学術の進展に寄与した。

■ 主な研究テーマ等

在外日本前近代史研究の軌跡

2018.04～2021.03, 代表者: 坂上康俊, 九州大学, 日本学術振興会

日本史学分野に関する学術研究動向

2016.04～2019.03, 代表者: 坂上康俊, 九州大学, 日本学術振興会.

北と南からみた古代列島世界

2016.04, 代表者: 三上喜孝, 国立歴史民俗博物館, 国立歴史民俗博物館.

戦争と国家成立における環境

2012.04～2016.03, 代表者: 林部 均, 国立歴史民俗博物館, 国立歴史民俗博物館.

日韓歴史共同研究委員会

2007.06～2009.06, 代表者: 鳥海靖, 日韓文化交流協会.

21世紀COEプロジェクト「東アジアと日本—交流と変容—」

2002.04～2006.03, 代表者: 今西裕一郎, 人文科学研究院・比較社会文化研究院

活動概要

PBL (Problem-/Project-Based Learning) やTBL (Team-Based Learning) などのアクティブ・ラーニングの手法を応用した、より効果的な教育方略の開発と、信頼性のあるアウトカム評価法の開発に取り組んでいます。また、これらに基づいて実際の授業科目を設計・実践しながら、改善を試みています。特に、現在、共創学部の先生方と協力して「協働科目」を中心に据えた"共創的課題解決力を育成する教育モデル"の開発に取り組んでいます。基幹教育院・次世代型大学教育開発センターのメンバーとして、ファカルティ・ディベロップメントの企画開発と実践を行っています。VR(Virtual Reality)/AR(Augmented Reality)の応用システムに関する研究開発を行っています。

■ 主な研究テーマ等

共創的課題解決力を育成する教育モデルの開発と、それに基づく優れた教育実践の蓄積と活用

キーワード：協働学習、課題解決力、教育モデル

2019.04～2022.03.

課題探究・解決型協同学習プログラムの開発

キーワード：協同学習、チーム基盤型学習法、TBL、PBL、ICT

2017.04～2021.03.

体系的なアウトカムベース教育プログラムの開発

キーワード：アクティブ・ラーニング、チーム基盤型学習法、TBL、ICT

2013.01～2017.12.

活動概要

1987年3月に九州大学歯学部を卒業後、同大学院歯学研究科へ進学し、下顎運動を主体とした顎機能について研究を行い、平成4年に博士(歯学)を取得。その後、関連テーマで自身の研究ならびに大学院の指導を行ってきた。「総義歯における咬合力と咀嚼筋活動了指標とした咬合機能解析」(1994年度科研費、奨励研究(A))、「インプラント上部構造と天然歯の咬合力負担時の咬合接触に関する研究」(1994-95年度科研費、一般研究(C)、分担)を遂行。また、1999-2001年度、基盤研究(B)(2)(一般)、分担、「咀嚼筋痛およびブラキシズムが顎機能に及ぼす影響に関する研究」を遂行し、研究成果を学会誌等に報告した。

2002-03年度には、基盤研究(C)(2)「咬合の異常感覚症患者の診断法に関する基礎的研究」および2005-06年度には基盤研究(C)「咬合の異常感覚症患者の客観的診断法の開発に関する研究」の交付を受け、研究成果は国内外の学会、学術誌に報告した。

1995年6月から97年3月まで、UCLA歯学部のDiagnostic Sciences and Orofacial Pain講座に留学。この間、「慢性筋痛のメカニズム:交感神経刺激が咀嚼筋内血流におよぼす影響について」というテーマで臨床研究を行い、国際学会にて発表し、英文論文に報告した。97年3月帰国後、UCLAでのテーマをさらに発展させて大学院生の指導を行っている。1999-2000年度科研費、奨励研究(A)、「筋血流および筋電図を用いた咀嚼筋疲労ならびに慢性筋疼痛の評価」の交付を受け、国内外の学会で報告し、英語論文2編、和文1編を報告した。

大学院4年次から学部学生実習に参画し、基礎実習ならびに臨床実習の指導を行ってきた。1997年度より、学生臨床実習の指導を行いつつ、同時に歯科研修医の臨床ならびに研究指導を行ってきた。このうち、補綴治療患者の咀嚼機能の客観的・主観的評価法について、国内外の学会で報告し、その後英語論文として報告した。2003年4月にソウルで開催された国際学会において、関連テーマで口演発表を行い「Best Oral Presentation Award」を受賞した。また、国内では、2004年5月に開催された第111回日本補綴歯科学会学術大会において「課題口演優秀賞」を受賞した。その後、2007-08年度科研費、基盤研究(C)(代表)「咀嚼機能の多軸評価に基づく補綴歯科治療の効果判定ツールの開発」、2007-08年度科研費、基盤研究(C)(分担)「生体反応を考慮したブラキシズムの新規治療プロトコルの提案」、2009-11年度科研費、基盤研究(B)(代表)「顎関節症およびブラキシズムに対するスプリント治療のランダム化比較試験(RCT)」、2011-12年度科研費、挑戦的萌芽研究(代表)「fMRIを用いた線維筋痛症患者における中枢神経系の痛覚過敏関与部位の検索」、2012-14年度科研費、基盤研究(C)(分担)「ブラキシズム患者の補綴装置破損を回避する新規治療プロトコル」、2013-15年度科研費、基盤研究(B)(代表)「補綴歯科臨床における認知行動療法の効果:ランダム化比較試験(RCT)」、2014-15年度科研費、挑戦的萌芽研究(代表)「スプリント治療の効果は睡眠時ブラキシズムの活動強度で異なる」、2016-18年度科研費、基盤研究(C)(代表)「補綴治療による咀嚼機能の改善を科学的に測る:咀嚼側に着目した咀嚼機能の包括的解析」を遂行した。現在、2019-21年度科研費、基盤研究(C)(代表)「顎顔面補綴治療による咀嚼機能の改善様相:咀嚼側に着目した咀嚼機能の科学的解析」について研究を進めている。

平成9年度より基礎研究にも従事。現在大学院生とともに、ラットの顎関節滑膜におけるNOS、IL-1 β 、NF- κ Bの免疫組織化学的および免疫細胞化学的局在の研究を行ってきた。成果の一部は国内外の学会で報告し、英文誌2編に報告した。1997-98年度科研費、基盤研究(C)(2) (代表)「顎関節炎症ラットにおける神経ペプチド陽性神経の分布及びその受容体の局在の検索」、1998-2000年度科研費、基盤研究(B) (分担)「骨基質により生体親和性を向上させたチタンの開発に関する基礎的研究」、2006-07年度科研費、萌芽研究 (分担)「紅麹エキスをを用いた新規骨形成法に関する研究」を遂行した。

このほか、日本補綴歯科学会、国際疼痛学会 (IASP) のOrofacial Pain Special Interest Group (OFP SIG)、International RDC/TMD Consortium Network (Secretary、2012年9月～2015年3月)等の活動、日本顎関節学会の病態分類委員会等に参与し、国内外において補綴歯科治療、顎関節症・口腔顔面痛に関する診療ガイドライン策定等にも貢献している。

2017年4月、九州大学大学院歯学研究院歯科医学教育学分野(教授)に異動し、主に歯学部における卒前教育を主導的に実施している。

■ 主な研究テーマ等

補綴治療による咀嚼機能の改善を科学的に測る：咀嚼側に着目した咀嚼機能の包括的解析

キーワード：咀嚼, 補綴治療, 咀嚼側, 咀嚼機能

2016.04～2022.03.

口腔顔面痛の評価・管理における身体心理社会モデルの適用と有用性へのチャレンジ

キーワード：口腔顔面痛, 心理社会的因子, 身体心理社会モデル

2016.06～2021.03.

磨耗メカニズムを考慮した睡眠時ブラキシズム患者に使用する歯冠修復材料の選択

キーワード：睡眠時ブラキシズム, 修復材料, 磨耗, 治療

2015.04～2018.03.

スプリント治療の効果は睡眠時ブラキシズムの強度によって異なる

キーワード：睡眠時ブラキシズム, スプリント治療, 治療効果

2011.04～2016.03.

補綴歯科臨床における認知行動療法の効果：ランダム化比較試験(RCT)

キーワード：補綴治療, 認知行動療法, ランダム化比較試験

2011.04～2017.03.

■ 続き

CTを用いた骨密度評価によるインプラント初期固定の客観的予測

キーワード: インプラント, 初期固定, C T, 骨密度

2010.04~2018.03.

顎関節症およびブラキシズムに対するスプリント治療のランダム化比較試験 (RCT)

キーワード: 顎関節症, ブラキシズム, スプリント治療, ランダム化比較試験, RCT

2009.04~2016.03.

顎義歯装着患者に対する専門的栄養指導が質的栄養改善に与える影響

キーワード: 栄養指導, 顎顔面補綴, 治療効果

2009.04~2013.03.

ブラキシズム患者の補綴装置破損を回避する新規治療プロトコール

キーワード: ブラキシズム, 補綴装置, 破損, 治療

2012.04~2015.03.

fMRIを用いた線維筋痛症患者における中枢神経系の疼痛過敏関与部位の検索

キーワード: ファンクショナルMRI, 線維筋痛症, 中枢神経系, 疼痛過敏

2011.04~2013.03.

顎関節症およびブラキシズムに対するスプリント治療のランダム化比較試験 (RCT)

キーワード: 顎関節症, ブラキシズム, スプリント治療, ランダム化比較試験, RCT

2009.04~2013.03.

Cone-beam CTを用いた骨密度評価によるインプラント初期固定の予測

キーワード: インプラント, 初期固定, コーンビームCT, 骨密度

2008.04~2013.03.

天然歯とインプラントのInterproximal Contactの経時的離開に関する研究

キーワード: インプラント, 歯間離開

2007.04~2016.03.

咀嚼機能の多軸評価に基づく補綴歯科治療の効果判定ツールの開発

キーワード: 咀嚼機能, 多軸評価, 補綴治療, 効果判定

2007.04~2011.03.

生体反応を考慮したブラキシズムの新規治療プロトコールの開発

キーワード: ブラキシズム, 生体反応, 治療

2007.04~2010.03.

補綴歯科治療の治療効果判定に関する研究

キーワード: 歯科補綴治療, 評価

1998.04~2016.03.

■ 続き

咬合の異常感覚症の診断と治療に関する研究

キーワード:咬合、異常感覚症

2002.01～2017.03.

慢性筋痛のメカニズムに関する研究

キーワード:慢性疼痛、筋痛

1995.06～2001.03.

顎機能障害の治療に関する研究

キーワード:顎機能障害

1987.04～2017.03.

顎機能の解析に関する研究

キーワード:顎機能、下顎運動、顎機能異常

1987.04～2005.03.

質問紙法を用いた疼痛評価に関する研究

キーワード:疼痛, 質問紙

2003.11～2014.03.

活動概要

デジタルコンテンツ制作の分野は、CG、映像、WEB、デジタルアーカイブなど、複合的な表現領域であるため、幅広い分野に精通することが求められます。コンテンツデザインラボでは、多彩なデジタルコンテンツの生成や表現手法、及びその問題点を探ってデジタルメディア表現の可能性を追求しています。また、それだけでなく、現在ある社会的なニーズを的確に捉え、それを満たすことができる包括的なデジタルコンテンツの設計を実践していくことを研究の中心に据えています。

■ 主な研究テーマ等

全周スクリーンを用いた新たな体感型映像コンテンツの提案

キーワード: 360度, 実写映像, パノラマスクリーン

歴史系博物館におけるゲーム性を取り入れた参加型展示支援システム

キーワード: ミュージアムコンテンツデザイン

ミュージアムシアター子ども視聴用におけるS3DCGの安全性を考慮した映像コンテンツ制作に関する研究

キーワード: 立体映像

特別支援教育におけるデジタルコンテンツデザイン

キーワード: 特別支援教育, デジタルコンテンツ

デジタルアーカイブを基盤とした世界遺産ガイドシステムの開発

キーワード: デジタルアーカイブ, 世界遺産

シミュレーション映像を用いた新たな防災教育コンテンツの開発

キーワード: シミュレーション, 防災教育コンテンツ

活動概要

民間企業において6年間、コンピュータグラフィックスを用いたデジタルコンテンツのデザイン、制作に携わってきた。この分野は、未だ発展途上の段階にあり、データ構築の手法、コミュニケーション時のビジュアル表現など解決、開発すべき要素が多々存在する。これら必要とされる様々な要素について研究を行い、実際の制作へと展開していく。現在は、主にゲームデザイン、およびアニメーションの分野で調査、研究および教育をおこなっている。

■ 主な研究テーマ等

シリアスゲームデザインに関する研究

キーワード: ゲーム デザイン 教育 娯楽

2009.04~2012.03.

活動概要

研究活動として、データの利活用を促進するという観点から、大きくわけて

1. 様々なデータを解析して利活用を促進する、2. データの共有や保存、解析しやすいデータベースの基盤を構築する、の2つの研究を行っています。

最近流行のサービスで例えれば、Twitterのようなサービスに必要な機能を検証したり、

実際にシステム構築を行ったりするのが後者で、Twitterでのつぶやきやfollowerの関係を解析し、有用な知識を抽出するのが前者です。前者の研究で、主に対象としているデータは、Web上のテキストデータ、時系列データ(主に地球磁場に関するデータ)、サービスの利用ログ、ソーシャルグラフなどです。後者の研究は、主に、SNSをベースにした情報共有システムやその基盤技術(検索やデータベース)の構築、認証や認可に関する理論的研究、(学術情報という観点から)機関リポジトリや電子図書館構築に関する研究を行なっています。教育活動として、大学院システム情報科学府、理学部物理学科情報理学コース、工学部電気情報工学科の担当をしています。特に、人数の少ない情報理学コースでは、トランプを使ったアルゴリズムに関する講義(物理学科コアセミナー)を始め、一方向ではなく、学生さんが実際に手を動かし、体感できるような授業を目指しています。例えば、「データ科学」(前期水曜1限)では扇風機とストロボを使った回転数の測定の実習を通して、情報理論で重要なサンプリング定理を学びます。「データベース・情報検索」(後期水曜3限)では、スキーマの設計や検索アルゴリズムのアイデアを出して、自分たちで議論します。

■ 主な研究テーマ等

学術情報流通基盤としてのデータリポジトリに関する研究

キーワード: データリポジトリ、機関リポジトリ、オープンサイエンス、オープンデータ、2013.01.

データ科学的手法による科学的知見の発見

キーワード: 科学データ、機械学習、時系列データ、2010.01.

Webマイニング

キーワード: 半構造化データ、ブログ、マイクロブログ、コミュニティ、1999.01.

機関リポジトリに関する研究

キーワード: 機関リポジトリ、学術コンテンツ流通、教育研究支援基盤、2007.04.

例外文字列発見に関する研究

キーワード: 例外パターン、スパム検出、ゲノム配列、2007.04.

認証認可システムに関する研究

キーワード: 認証、認可、プライバシー保護、ICカード、導入コスト、2008.04~2011.03.

電子図書館に関する研究

キーワード: 電子図書館、自動認識技術、RFID、利用者カード、プライバシー保護、2005.05~2008.03.

文字列上の頻出パターンマイニング

キーワード: 文字列、部分文字列増幅法、ベキ分布、ジップの法則、スパム検出、2001.03~2013.01.

活動概要

1. サイバーセキュリティセンターにおける研究・教育活動:

安全なIoT空間を実現するセキュリティフレームワークの研究開発及びそのフレームワークを利用したアプリケーションの研究開発を行なっている。特にブロックチェーンの技術を利用したアプリケーションの開発に注力している。また、教育活動として、セキュリティを考慮して、ものづくりができる人材の育成を行なっている。

2. 大学運営に関わる活動:

九州大学CSIRT (Computer Security Incident Response Team)として、九州大学のサイバーセキュリティ対策業務に従事している。特に、九州大学の構成員(教職員)を対象としたセキュリティ教育に従事している。

3. 附属図書館(兼任)における研究・教育活動:

ICTを活用した学習支援環境の構築及びラーニングアナリティクスによるインストラクショナルデザインの研究等の業務を遂行している。

4. ものづくり人材の育成活動

デジタルファブ리케이션, メディアアート, ビデオゲームなどのアナログとデジタルを融合したものづくり教育を学内・学外の大学で実践している。また、企業と連携して、学内でのハッカソンなどを開催し、学生のものづくりを支援する教育活動を行なっている。

5. その他の社会貢献活動:

国内・国外の開発者コミュニティを運営し、ものづくり人材の育成に貢献している。

■ 主な研究テーマ等

安全なIoTセキュリティフレームワークの研究開発

キーワード: IoT, サイバーセキュリティ, ブロックチェーン

ICTを活用した学習支援環境の研究開発

キーワード: デジタル教材, インタラクティブ教材, ラーニングアナリティクス

活動概要

医療コミュニケーション教育、医学教育研究(指導医評価研究)、臨床推論教育、身体診察教育、医学教育マネジメント

■ 主な研究テーマ等

優れた臨床指導医の形成プロセス解明に関する探索的研究

キーワード: 指導医、教育、研修医、ファカルティードベロップメント

2015.04～2017.03.

初期臨床研修医の指導医評価表記入における評価プロセスに関する研究

キーワード: 評価プロセス、指導医評価、臨床指導医、研修医

2014.04～2016.03.

臨床指導医評価表(案)の信頼性及び構成概念妥当性の検証に関する研究

キーワード: 指導医評価、日本、信頼性、構成概念妥当性

2013.06～2016.03.

指導医評価表作成に関する研究

キーワード: 指導医、評価、研修医、Modified Delphi, face validity, 信頼性

2010.02～2013.02.

優れた指導医の研修医への影響に関する研究

キーワード: 指導医、研修医、影響

2009.04～2012.03.

良き臨床指導医の特徴に関する研究

キーワード: 指導医、教育、研修医、ファカルティードベロップメント

2009.04～2012.03.

活動概要

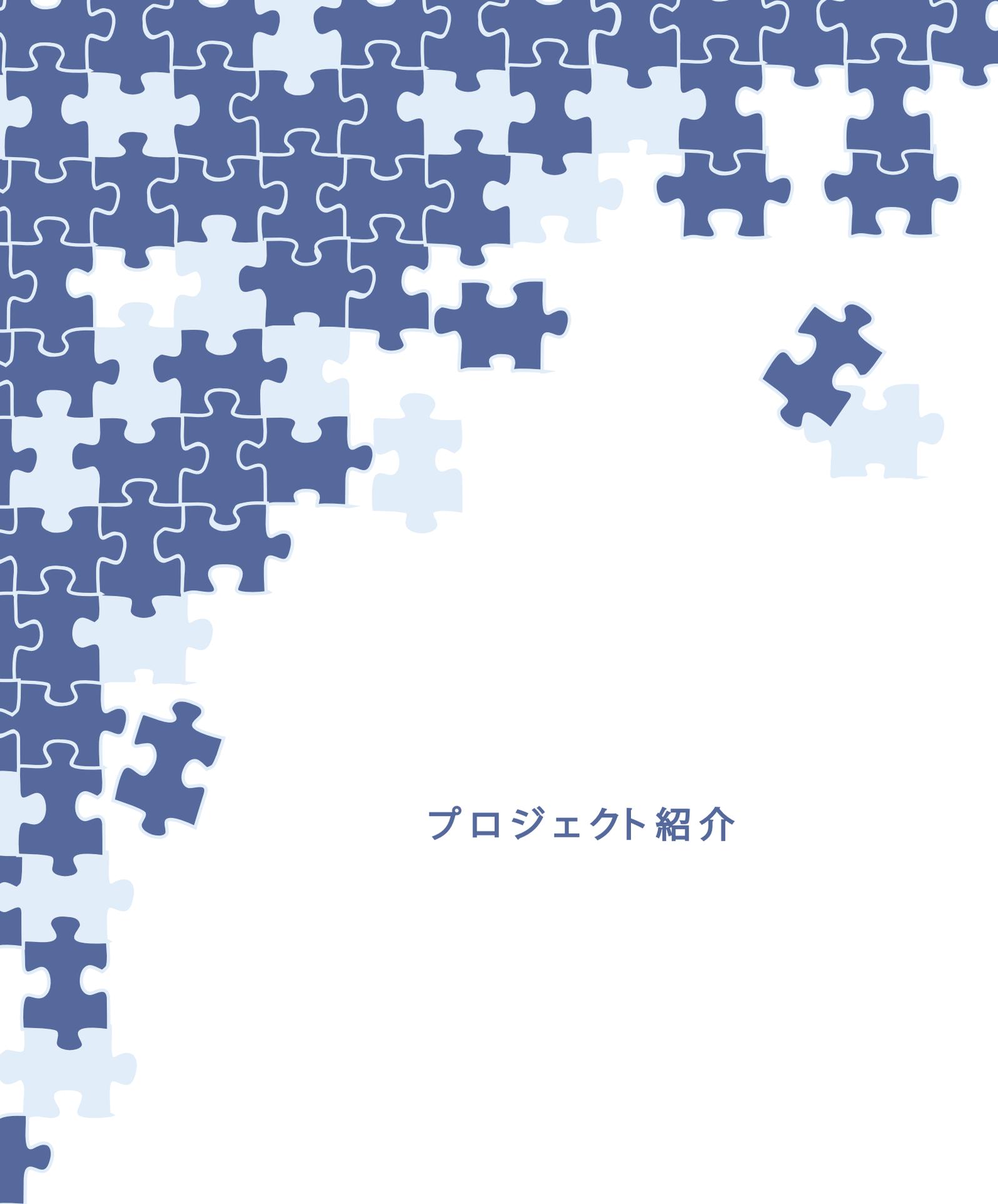
知的財産法を研究しています。現在までの主たるテーマは先使用権制度でしたが、現在は知的財産と占有に興味を持って研究しています。また、デザイン保護法制の国際的調和の研究にも取り組んでいます。

■ 主な研究テーマ等

知的財産法

キーワード: 知的財産 先使用権 占有 デザイン 国際的調和

2014.04～2025.03.



プロジェクト紹介

MOOC 大規模公開オンライン講座

教材開発センターでは、平成26年度よりMOOC(Massive Open Online Courses 大規模公開オンライン講座)の制作と開講の取り組みを開始しました。平成26年度は、溝口孝司先生(比較社会文化研究院・教授)とClaire Smith先生を講師とする「Global Social Archaeology」を開講しました。平成27年度は、岡村耕二先生(サイバーセキュリティセンター長・教授)の「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」と溝口孝司先生とClaire Smith先生による「Global Social Archaeology: Expanded edition」を開講し、反転授業を実施しました。平成28年度は、都甲潔先生(味覚・嗅覚センサ研究開発センター長・主幹教授)を講師とする「味と匂いの科学技術」を開講しました。平成29年度は、「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」を再開講し、また、丸山宗利先生(総合研究博物館・准教授)を講師とする「昆虫学入門—多様性を探る—」の制作を実施し、今年度夏季に開講いたしました。さらに、三谷泰浩先生(工学研究院附属アジア防災研究センター長・教授)を講師とする「豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に—」の制作を開始しました。

「昆虫学入門—多様性を探る—」開講 概要

講師

丸山宗利 (総合研究博物館・准教授)

公開プラットフォーム

Open Learning, Japan(JMOOC公認プラットフォーム)

開講期間

2018年7月23日(月)～8月20日(月)

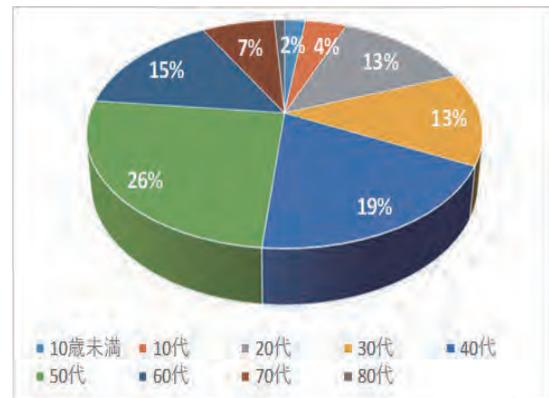
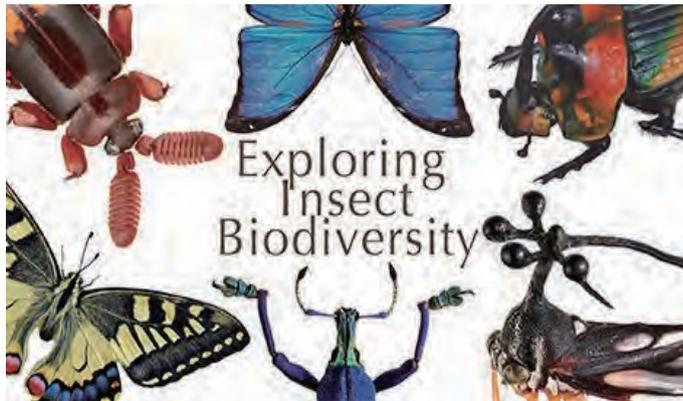
教材開発センターが制作した第5弾MOOC講座「昆虫学入門 - 多様性を探る - Exploring Insect Biodiversity (図1)」は、九州大学総合研究博物館の丸山宗利准教授が講師をご担当になり、2018年7月23日(月)～8月20日(月)にわたりJMOOCにおいて開講しました。本講座では、どうして昆虫が多様なのか、どのように多様なのか、昆虫の多様性の実態とその理由について学ぶことができます。このような昆虫研究では、世界各地で採集調査を行います。ここ数年で印象深かった調査の様相も紹介されました。



撮影の様子

2. 結果

まず受講者数と修了者数についてですが、受講者数は、これまでに教材開発センターで開講したなかで最も多い1606名に達し、うち修了者数は818名でした。修了率は50.9%という、一般的なMOOCでの10%以下という修了率(e.g., Alrami & Ciganek, 2015)と比較して、非常に高い値を示しています。受講者は日本だけでなく、アメリカ合衆国4名、台湾3名、フランス2名、インド2名など、世界の多様な国から計23名が受講していました。また、過去のMOOC講座における受講者の年齢層では、60代が高い割合を占めていましたが、本講座では、60代未満の受講者が75%以上を占め、特に10歳未満(2%)、10代(4%)、20代(13%)の受講者が、合計で20%近くに達していることが、特徴として見て取れます(図2)。本講座が生涯教育に貢献し、また、小・中・高校生が九州大学での学びを体験する機会を提供していると考えられるのではないのでしょうか。



平成30年度の取り組み

近年、日本各地で大きな自然災害が頻発しています。教材開発センターではMOOC講座第6弾として、自然災害の中でも、特に風水害・土砂災害を中心に、災害・防災の考え方について学ぶ「豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に—」の制作を開始しました。来年度夏季にJMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)からの開講を目指して、プロモーションビデオを制作しました。

今回の講師は、工学 研究院附属アジア防災研究センターの三谷泰浩教授です。本講座は、豪雨災害に着目して、三谷先生が関わって来られた平成29年7月九州北部豪雨災害での事例を交えながら、災害の意味、防災の意味、そして災害が終わった後の復旧・復興について学ぶ内容となっています。どうぞ期待ください。

豪雨災害とその対策
平成29年7月九州北部豪雨災害を例に

募集中

2019年7月25日開講

豪雨災害とその対策—平成29年7月九州北部豪雨災害を例に—

九州大学 三谷 泰浩

対面学習コースあり

OpenLearning

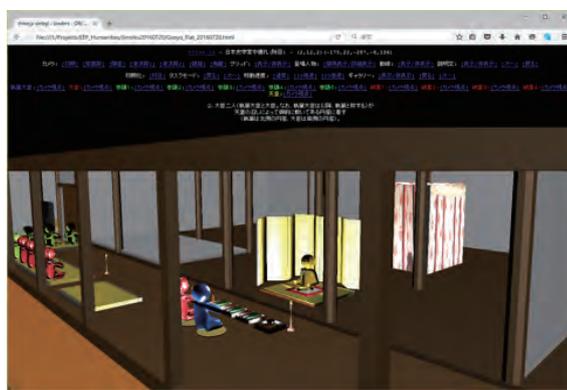
文学部

日本史学(宮中儀礼) を対象とした教材開発

文学部が実施したEEP(九州大学・教育の質向上支援プログラム)「文系ディシプリン科目教科書・副教材の開発(人文学教育カリキュラムの充実を目指して)」(期間:平成25~27年度)との連携活動の一つとして、平成26年度から、人文科学研究院 坂上康俊教授の研究室メンバーと協働で日本史学(宮中儀礼)に関する副教材の開発を実施しています。

活動組織

坂上 康俊 (人文科学研究院 教授)
山下 洋平 (人文科学研究院 助教)
竹井 良介 (人文科学府 博士後期課程)
岡田 義広 (教材開発センター長)
石 偉 (教材開発センター 助教)
平山 大貴 (理学部物理学科情報理学コース4年)



活動概要

宮中の儀式の様子を紙の媒体だけで学習するのではなく、3次元CGアニメーションや3Dプリンターで出力された建物のモデルを見ながら学習することで、学習内容をより深く理解でき、学習対象に興味を沸かせることができると考えています。3次元CGアニメーションを表現するために、種々の故実書や論文等から情報を収集し内容の精査を行いながら、その時代の建物の形状モデル作成を行う必要があります。登場人物の動線や振る舞いについてもデータ作成を行う必要があります。当該の教材は、Webコンテンツとして開発し、Web上で順次公開していきます。

平成30年度の取り組み

平成29年度に引き続き平安時代の「除目」とよばれる諸官を任命する宮中儀礼の様子を3次元CGアニメーションで再現する対話型電子教材の開発に取り組んでいます。WebGLという技術による閲覧システムの完成度も上がり、任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。平成26年度から28年度まで実施した「官奏」とよばれる宮中儀礼よりも登場人物の振る舞いが細かく、それを表すアニメーションデータの作成に注力しています。

研究業績

1. 岡田義広, 研究報告「Linked Dataに基づく対話型Web 3D教材の開発」大学との連携研究(奨励研究)の成果、公開シンポジウム「資料がつなぐ大学と博物館」(国立歴史民俗博物館共同研究「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」平成30年度全体集会)、2019年3月9日。
2. Chenguang Ma, Wei Shi, Yoshihiro Okada, Interactive Web 3D Contents Development Framework Based on Linked Data for Japanese History Education, 12th Int. Conf. on E-learning and Games (Edutainment 2018), Springer, 2019, pp. 275-283.

文学部 中国文学を对象とした教材開発

九州大学人文科学研究院の先生や学生の方々との連携活動の一つとして、高校生を対象とした「鴻門之会」と「史記・荊軻列伝」二つの漢文題材を効果的に学習できる教材を研究開発しています。

活動組織

静永 健 (人文科学研究院 教授)
長谷川 真史 (人文科学研究院 専門研究員)
栗山 雅央 (人文科学研究院 専門研究員)
種村 由季子 (人文科学研究院 専門研究員)
井口 千雪 (人文科学研究院 講師)

石 偉 (教材開発センター・助教)
金子 晃介 (教材開発センター 協力教員)

図窮まりて匕首見はる

※『史記』巻八十六「刺客列伝」(荊軻)



荊軻

あなたの性別を教えてください
● 男子 ● 女子
学生番号を入力してください
実験番号を入力してください

APP使用方法

開始 再開



秦王(始皇帝)

活動概要

九州大学人文科学研究院の先生や学生の方々と協働で、高校生を対象とした「鴻門之会」と「史記・荊軻列伝」の漢文題材を効果的に学習できる教材を研究開発しています。「鴻門之会」は、紀元前206年頃の中国で楚の項羽と漢の劉邦が会見した出来事についての文学作品です。「史記・荊軻列伝」は、中国戦国時代末の刺客・荊軻の伝説に関する文学作品です。この二つは、高校生が習う漢文の教材の中でもよく知られた題材です。本システムは、従来の紙ベースの教科書では実現が難しかった2D・3Dアニメーションやインタラクティブな操作による学習を盛り込むことで、教材の内容の理解を支援するためのシステムになっています。システムを開発する中で、漢文の文章の際には見えなかった細かな部分の動きなどが発見されるため、人文科学研究院の先生や学生の方々と議論しながらシステムの開発を進めています。

平成30年度の取り組み

1. 「鴻門之会」のモニタリングをお願いしました福岡市西南学院高等学校を2018年6月13日に訪問し、高大連携について議論させていただきました。
2. 「窮まりて匕首見はる」の中に記載されている物語を3次元アニメーションで再現する電子教材の開発を行いました。WebGLという技術を活用した教材は任意のウェブブラウザで閲覧し学習することができます。漢文と書き下し文と訳文を比較して閲覧できます。

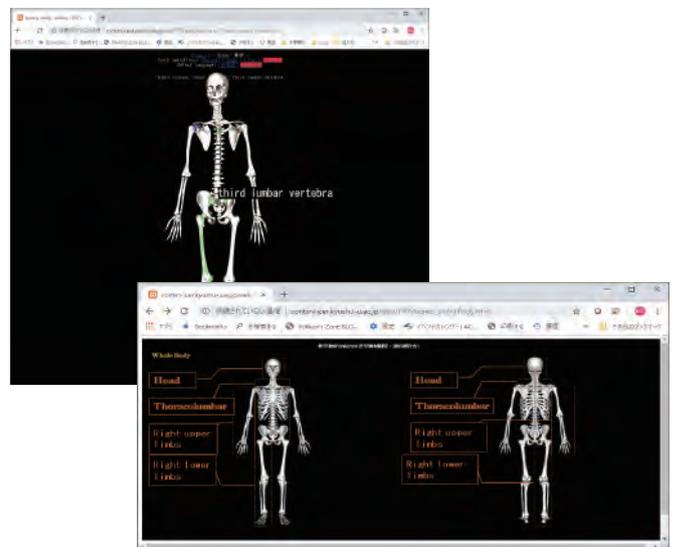
医学部

医学科目を対象とした教材開発

平成24～25年度に採択され実施したP&P(九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト)「病院 地区における3D教材の開発および開発・提供体制の構築」の事業内容を継続して、学生主導で医学教材を開発しています。平成24年度は3DCGを活用した骨学の電子教材、平成25年度は細菌学のシリアスゲーム教材「サイキンハザード」、平成26年度は解剖学のシリアスゲーム教材「アナトミー・アドベンチャー」、平成27年度から病理学のシリアスゲーム開発などを継続実施しています。

研究組織 (開発チーム)

岡田 義広 (教材開発センター長)
石 偉 (教材開発センター助教)
金子 晃介 (教材開発センター協力教員)
山村 光 (理学部物理学科情報理学コース4年)
協力者
吉田 素文 (国際医療福祉大学 教授)



研究概要

大学の使命の一つである優秀な人材の輩出において、ICT技術を高度に活用した新しいタイプの教材開発と、その教材を公開し開かれた学習の場を提供することにより、学内外の自立的な学習者による協調的な学習の推進を図ることはきわめて重要です。実際の授業で利用できる教育効果の高い教材を開発するためには、授業の実施主体である教員と学生の協力が不可欠です。本研究の目的は、医学教育分野に対象を絞り、教員と学生の協力のもと3DCG（3次元コンピュータグラフィックス）等を活用した電子教材の開発と教育実践を通して、教材の開発体制の構築と教材の提供体制の構築を図り全学規模の教材開発に先立つ電子教材開発のモデルケースを確立することです。具体的には、1) 3D教材の開発と教材開発体制の構築、2) 教材の提供体制の構築、3) 教材開発プロセスの確立、4) 教育効果の検証方法の確立をそれぞれ目指します。本研究の成果を他分野へ導入することにより、全学規模の教材開発を強力に推し進めることが可能となります。

平成30年度の取り組み

平成30年度は、これまでに開発した教材の英語化に取り組みました。細菌学と解剖学をそれぞれ対象とするゲーム教材の「サイキンハザード」と「アナトミーアドベンチャー」を英語化するための日本語文抽出を行いました。シリアスゲーム教材の有用性を評価するモデルであるRETAINモデルに基づく評価手法について検討しました。さらに、2D・3D骨学教材の英語化を実施しました。

放射線治療

のためのセットアップトレーニング支援システムの開発

医学研究院の先生・学生と共同で、放射線技師が放射線治療を行う際に必要になる患者のセットアップの工程を体験的に学習できる教材を開発しています。実際の放射線治療装置は、治療のスケジュールやランニングコストの問題などから気軽に講義で利用できるものではないので、CG等を利用して、安価でありながら体験的に学習できる教材を開発しています。

研究組織 (開発チーム)

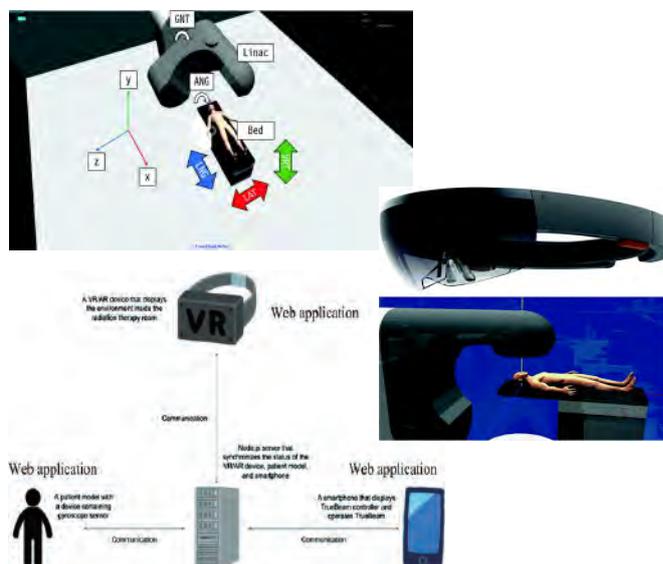
藤淵 俊王 (医学研究院 准教授)

川内野 友則 (医学系学府 修士1年)

岡田 義広 (教材開発センター長)

金子 晃介 (教材開発センター 協力教員)

黒田 幸太郎 (システム情報科学府 修士1年)



研究概要

放射線治療は、がん治療の手法の一つで、外科手術のように患者の体を切開することもなく、また抗がん剤治療のような副作用も少ないことから、注目されている治療の手法となっています。放射線治療では、患者のがん細胞に対して放射線を照射し、がん細胞を破壊します。この際に、他の正常な細胞に放射線が当たらない様に、患者の位置を正確にセットアップする必要があります。本支援システムは、放射線治療の際に、放射線技師が患者の体を適切な位置にセットアップできるように訓練するためのものです。訓練の内容としては、ファントムと呼ばれる人型のマネキンを利用して、位置情報と回転角度を計測し、正しい位置と角度で配置ができているかを確認します。ファントムには、傾きを計測するためのアプリが巻き付けられており、患者の体の回転角度を計測することができます。また、寝台操作を行う際の「ペンダント」と呼ばれるコントローラーを模倣したアプリを利用し、寝台を動かして患者の体の位置合わせも行います。患者の体の位置情報や回転角度は、セットアップ確認用のアプリケーションを通じて確認することができます。体感的にセットアップのトレーニングを行うことで、座学での学習よりも高い学習効果があると考えられています。

平成30年度の取り組み

患者の体の傾きを計測するためのスマートフォン・アプリ、セットアップ確認のための表示機能をもつ寝台操作のペンダントを模倣したスマートフォン・アプリのそれぞれをWebアプリとして開発しました。これらのアプリケーションがWebサーバを介して通信することにより、協調操作が可能となります。

代表的研究者紹介ビデオ制作

本学の研究レベルの高さを広く国内外にアピールするための研究者紹介ビデオの撮影・編集・公開に取り組んでいます。

活動概要

教材開発センター所有のスタジオと、映像教材制作のノウハウを活かし、本学を代表する先生の研究内容とその魅力をわかりやすく伝えるビデオを制作しています。ビデオは九州大学公式YouTubeのほか、特設サイト「先生の森 森の映画館」で公開しています。また、日本語・英語字幕を付け、九州大学の研究レベルの高さを世界に広くアピールします。各部局から推薦いただいた28名の先生のビデオを制作しています。

平成30年度の取り組み

平成30年度は、11名の先生方のビデオ撮影を、スタジオや先生の研究室で行いました。

このうち9名の先生の動画を、3月末から特設サイトで公開しています。



森の映画館ウェブサイト
rpv.icer.kyushu-u.ac.jp



佐々木先生の紹介ビデオ

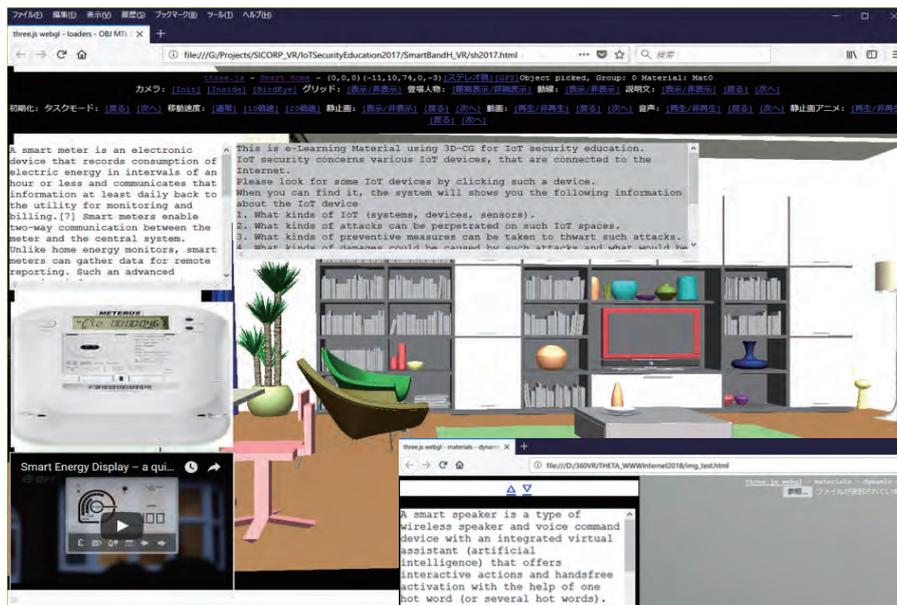


佐々木先生の撮影風景

その他の教材開発の取り組み

教材開発センターでは、九州大学内外問わず、3次元CG等のICTを活用した対話型電子教材の開発とその支援を積極的に行い、広く利用してもらう取り組みを実施しています。今年度の取り組みとして、九州大学サイバーセキュリティセンターとの連携した「IoTセキュリティ」教材の開発があります。

九州大学サイバーセキュリティセンター(センター長:岡村耕二教授)が中心となり、インド工科大学デリー校とのJST戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)[<https://cs.kyushu-u.ac.jp/sicorp/>]に本センターの教員および協力教員が参画しております。本プログラムのテーマは「安全なIoTサイバー空間の実現」に向けてで、本センターは教材開発を担当しています。Linked DataやWebGL と呼ばれる技術を使ったWebブラウザ上で3次元CG表現された教材です。スマートホームの3次元CG空間でスマートスピーカなどのIoTデバイスを発見し、どのような攻撃と被害があるのかを学習するというものです。また、360°VR画像を使ったWebブラウザ上で学習できる教材の開発も実施しています。



3次元CGによるWeb教材の例



36°VR画像によるWeb教材の例



活動 紹 介

講義動画等の 撮影・編集・公開

学生向けの講義や学内関係者向けの講習会、外部講師による講演などを撮影・編集し、依頼者の要望に応じてYouTube、iTunes U、OCWなどで公開しています。公開された動画はどなたでも視聴することができ、大学の授業を体験することができます。興味がある科目があれば、自分のペースでいつでも学習することができます。

教材開発センター ウェブサイト



<http://www.icer.kyushu-u.ac.jp>

九州大学 YouTube



<http://www.youtube.com/KyushuUniv>

九州大学 iTunes U



<http://itunes.icer.kyushu-u.ac.jp>

九州大学 OCW



<http://ocw.kyushu-u.ac.jp>

教材開発センターでは、年間を通してさまざまな形態の撮影を行っています。毎週の講義を撮影することで、学生がやむを得ず出席できない場合や復習したい場合、動画を利用して自主的に学習を進めることができるような学習環境の整備を行っています。今年度は連日開講された集中講義の撮影も行いました。本学の留学生や海外の大学の学生と英語でディベートについて学習し、実際に討論まで行う様子を記録したものを教材として公開しています。

また、各種講習会を撮影した動画を対象者へ配信することで、特定の試験や業務に従事するために必修となる講習会を効率的に受講することができるような体制づくりにも貢献しています。昨年度開発した学生生活QOLセルフチェックプログラムおよびストレッチ動画を公開しました。

講義や講習会そのものだけでなく、講義の内容を学生に分かりやすく伝え履修希望者を募るために、基幹教育科目

のビデオシラバス(科目紹介ビデオ)の制作も行っています。

さらに、今年度は日本学術振興会特別研究員への採用促進を目的として、プロモーションビデオや講義動画コンテンツの制作も行い、学生や研究者へ向けて公開されました。

2018年度にYouTubeで公開した動画は、限定公開を含め108本です。また、会場・現場へ赴き撮影を行った回数は、74回にのぼります。今後もより高品質な動画教材の制作を進めていき、九大の魅力を世界に発信していきたいと思っています。(MP4・DVD納品の非公開のものは110本)



講義の撮影風景

映像教材制作・公開実績

 = YouTube
  = 公開
 = iTunesU
  = 限定公開

タイトル	講師			その他	備考
講義(前期)					
ユニバーサルデザイン研究	田中真理教授および担当講師				学内利用 編集
アクセシビリティマネジメント研究	田中真理教授および担当講師				学内利用 編集
産業財産権特論	古川勝彦教授他			●	編集・公開
アクセシビリティ入門	田中真理教授および担当講師				学内利用 編集・公開
漢方医学教育	貝沼茂三郎准教授および担当講師			●	編集・公開
漢方医学教育ダイジェスト版	貝沼茂三郎准教授			●	編集・公開
21世紀プログラムパイロット授業	三木洋一郎教授				学内利用 撮影・編集・公開
講義(後期)					
共創学部協働科目	大賀哲准教授				学内利用
バリアフリー支援入門	田中真理教授および担当講師				学内利用 編集・公開
アクセシビリティ支援入門	田中真理教授および担当講師				学内利用 編集・公開
集中講義					
英語ディベート国際親善試合	井上奈良彦教授			●	撮影・編集
最終講義					
中西洋一先生(医学研究院)-九州大学から学んだ10の金言-	中西洋一教授			○	撮影・編集・公開
大賀祥治先生(農学研究院)-世界を駆けたキノコ学者/44年間の研究回想-	大賀祥治教授			○ ○	撮影・編集・公開
本庄春雄先生(総理工学研究院)-これまでとそれから-	本庄春雄教授			○	撮影・編集・公開
安浦寛人先生(システム情報科学研究院) 「創る、繋ぐ、伝える」～社会と情報技術の発展とともに～	安浦寛人教授			○	撮影・編集・公開
特別講義					
QFC-SP講義	各担当講師			●	撮影・編集・公開
講演会					
I2CNER Seminar Series 年間計6本	各担当講師			○ ○	撮影・編集・公開
SALC講義「英語の「最低限の知識」は存在するのか」	ミハウBバラドヴスキ(ワルシャワ大学)			●	撮影・編集・公開
コリン先生講演会	Kolin Paul 教授(インド工科大学デリー校)			●	撮影・編集
プラサド先生講演会	Sanjiva Prasad 教授(インド工科大学デリー校)			○	撮影・編集
危機管理セミナー(夏季・冬季)	服部誠氏(JCSOS)、山崎淳一郎教授(北海道大学)			●	撮影・編集・公開
EEP事後報告ヒアリング	谷正和 芸術工学院院长/教授 富浦洋一 附属図書館副館長				学内利用 撮影・編集・公開
WSSF(EUセンター)Parallel Sessions Day1	Jacques Pelkmans 教授(欧州政策研究所)他3名			●	撮影・編集・公開
WSSF(サイバーセキュリティセンター) Parallel Sessions Day3	Sanjay K.Jha教授(ニューサウスウェールズ大学)他3名				学内利用 撮影・編集
Q2PEC2018報告会	本学学生			●	撮影・編集・公開
安全の日講演会	佐伯岩雄氏(日本山岳ガイド協会)、荒殿誠理事				学内利用 撮影・編集
第1回九州大学病院MIC・観察研究セミナー	中島直樹教授 他3名			●	編集・公開
第3回九州大学病院MIC・観察研究セミナー	中島直樹教授 他3名			●	編集・公開
将来の夢を切り拓く"高大連携"「世界に羽ばたく高校生の成果発表会」基調講演	吉藤 健太郎氏(オリイ研究所)				学内利用 撮影・編集・公開
第4回九州大学日本橋セミナー	福田晋教授 他3名			●	編集・公開
FD					
平成30年度第1回全学FD(新任教員FD)	久保千春総長 他4名の理事				学内利用 撮影・編集・公開

 = YouTube
  = 公開
 = iTunesU
  = 限定公開

タイトル	講師			その他	備考
FD					
課題協学科目FD	角敏雄教授、小島健太郎准教授				学内利用 撮影・編集・公開
3 ポリシー見直し方針に関する全学FD	深堀聰子教授、黒河周平教授	●			学内利用 撮影・編集・公開
講習会					
平成30年度 X線取扱者新規教育訓練(日本語)	中島裕美子教授	●			学内利用 編集・公開
平成30年度 放射性物質取扱者新規教育訓練(日本語)	中島裕美子教授 他4名	●			学内利用 編集・公開
平成30年度 RIセンター伊都地区実験室予防規定講習会(日本語)	中島裕美子教授 他2名				編集
平成30年度 X線取扱者新規教育訓練(英語)	中島裕美子教授	●			学内利用 編集・公開
平成30年度 放射性物質取扱者新規教育訓練(英語)	中島裕美子教授 他4名	●			学内利用 編集・公開
平成30年度 RIセンター伊都地区実験室予防規定講習会(英語)	中島裕美子教授				編集
平成30年度 放射線取扱者 再教育訓練(日本語)	中島裕美子教授	●			学内利用 編集・公開
平成30年度 放射線取扱者 再教育訓練(英語)	中島裕美子教授	●			学内利用 編集・公開
工学部等放射線障害予防規程等講習会(日本語・英語)	出光一哉教授				学内利用 撮影・編集
理学部等放射線障害予防規程等講習会	山内幸正助教、寺西高准教授				学内利用 撮影・編集
平成30年度遺伝子組換え実験従事者等に対する教育訓練	廣谷龍輔 専門職(文部科学省)他4名				学内利用 撮影・編集
平成30年度第1回PI認定講習	中西洋一教授 他5名	●			撮影・編集・公開
平成30年度九州地区大学病院モニター研修会	小居秀紀氏(国立精神・神経医療研究センター)	●			撮影・編集・公開
遺伝子治療等臨床研究指標の改正について	平将生氏(厚生労働省)				学内利用 撮影・編集
M2B学習支援システム講習会	木實新一教授 他3名				学内利用 撮影・編集
説明会					
共創学部教員向け留学説明会	岡本正有名誉教授				学内利用 撮影・編集
全学基本メールサービスの変更について	藤村直美 特任教授	●			撮影・編集・公開
介入研究及び中央一括審査の申請についての説明会	重松大介氏(株式会社ユニオンシンク)				学内利用 撮影・編集
SciVal・Pure説明会	佐藤遼氏(エルゼビア・ジャパン株式会社)				学内利用 撮影・編集
E-learning教材					
リラクゼーション動画(英語版)	インクルージョン支援室から依頼				学内利用 編集
リラクゼーション動画(中国語版)	インクルージョン支援室から依頼				学内利用 編集
ストレッチング動画(英語版)	インクルージョン支援室から依頼				学内利用 編集
その他					
平成31年度用 基幹教育履修ガイダンスDVD用ナレーション収録	基幹教育教務係から依頼				学内利用 撮影・編集
QS-apple2019用プロモーションビデオ	SHARE Officeから依頼	○			編集・公開
基幹教育ビデオシラバス(3講義分)	福本 康秀教授 他4名	○			撮影・編集・公開
公開依頼					
共創学部2018大学説明会	共創学部より依頼	○			公開
プレスリリース動画(1120公開)	医学研究院 今井猛教授より依頼	○			公開
Kyushu University Countless Ways to Connect	広報室より依頼	○			公開
九州大学中央図書館PV	中央図書館より依頼	○			公開
九州大学 伊都キャンパス DRONE MOVIE(ダイジェストVer・フルVer.)	施設部より依頼	○			公開
Catch Your Dream! -Study in JAPAN-2019 (英語版、インドネシア語版、繁体語版)	広報室より依頼	○			公開

FD 講習会 開催

電子教材著作権講習会/電子教材開発者向け講習会

電子教材著作権講習会

講師：岡田 義広 (教材開発センター長)

5月 ~2キャンパス~

日 時:	場 所:	参加者:
2018年 5月 7日(月) 10:30~12:00	伊都地区 (センター2号2階 2205セミナー室)	計 11名
2018年 5月 7日(月) 17:30~19:00	病院地区 (総合研究棟1階 104セミナー室)	

12月 ~2キャンパス~

日 時:	場 所:	参加者:
2018年12月25日(火) 10:30~12:00	伊都地区 (中央図書館4階 講習会スペース)	計 27名
2018年12月25日(火) 1730~19:00	病院地区 (総合研究棟1階 104セミナー室)	

電子教材開発者向け講習会

講師：岡田 義広、大井 京、芳賀 瑛、石 偉 (教材開発センター教員)

12月 ~1キャンパス~

日 時:	場 所:	参加者:
2018年12月25日(火) 13:30~15:00	伊都地区 (中央図書館4階 講習会スペース)	計 33名

教材開発支援機材

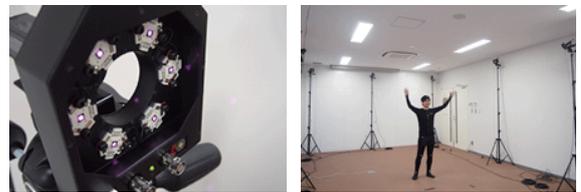
教材開発センターでは、2D/3D教材開発システムおよび講義収録配信システムを導入しており、利用を希望する教員へ機材の貸し出しを行っています。

2D/3D教材開発システム

デジタル顕微鏡



光学式モーションキャプチャー装置



3Dスキャナー



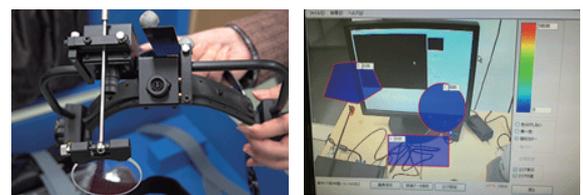
3Dプリンター



ハイスピードカメラ



視線追尾装置



360度VRカメラ

KANDAO Obsidian S



Insta 360 Pro

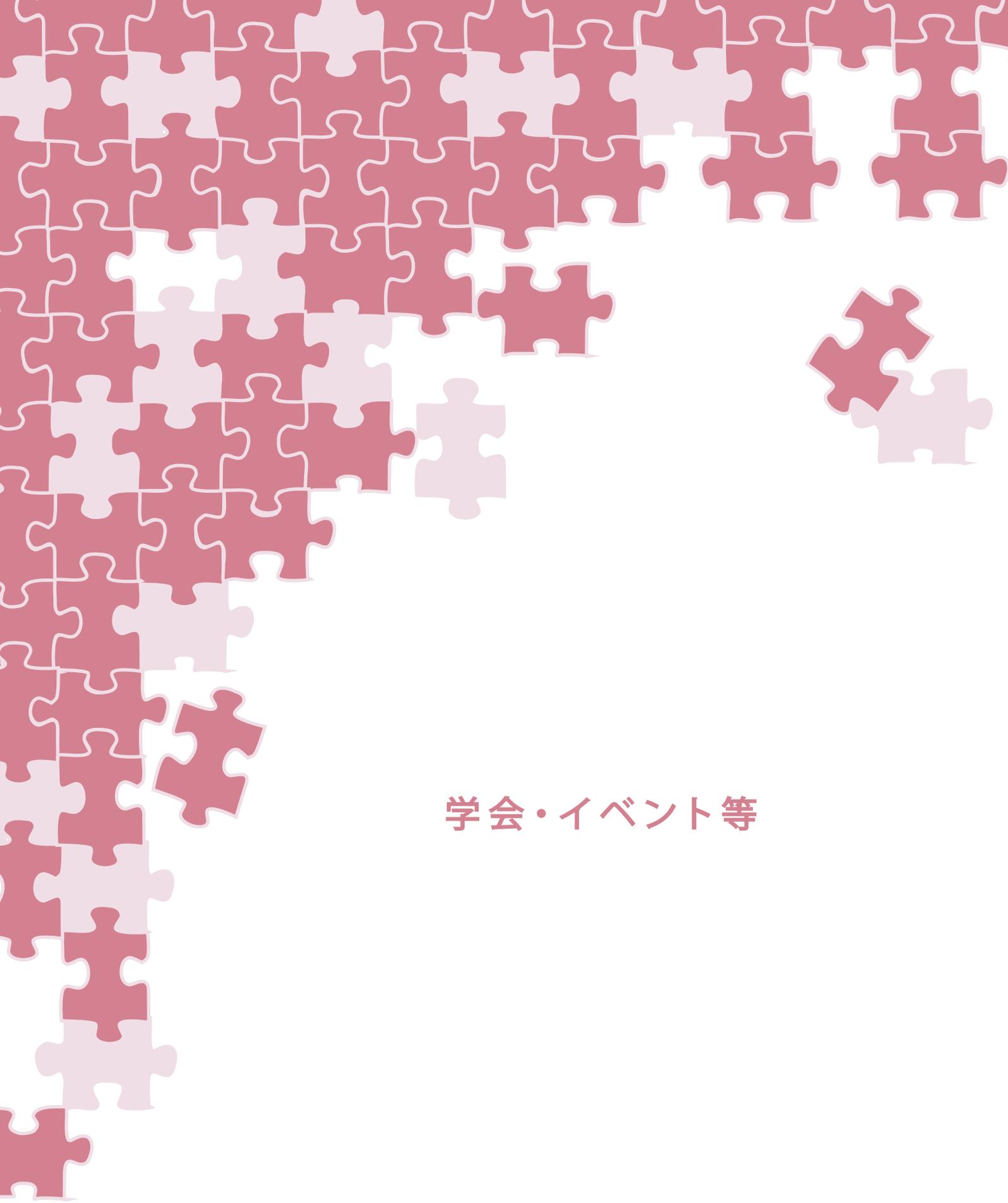


講義収録配信システム

Winnov Cbox



詳細は、次のURLよりご覧ください：教材開発支援機材利用申込みフォーム
https://www.icer.kyushu-u.ac.jp/lectcast_use_apply



学会・イベント等

学会・シンポジウム

「The 12th International Conference on E-Learning and Games(Edutainment 2018)」参加および発表

日時 2018年6月28日(木)～30日(土)
場所 西安(中国)
参加者 教員2名(岡田 義広、石 偉)

「The 12th International Conference on Complex, Intelligent, and Software Intensive Systems(CI-SIS-2018)」参加および発表

日時 2018年7月4日(水)～6日(金)
場所 松江(日本)
参加者 教員1名(岡田 義広)

「22nd International Conference Information Visualisation (IV 2018)」参加および発表

日時 2018年7月10日(火)～13日(金)
場所 サレルノ(イタリア)
参加者 教員1名(岡田 義広)

「The 21st International Conference on Network-Based Information Systems(NBiS-2018)」参加および発表

日時 2018年9月5日(水)～7日(金)
場所 プラチスラバ(スロバキア)
参加者 教員1名(岡田 義広)

「8th International Conference on Education, Research and Innovation(ICERI 2018)」参加および発表

日時 2018年10月10日(水)～12日(金)
場所 バンコク(タイ)
参加者 教員2名(岡田 義広、石 偉)

「17th International Conference WWW/Internet 2018(ICWI 2018)」参加

日時 2018年10月21日(日)～23日(火)
場所 ブタペスト(ハンガリー)
参加者 教員1名(岡田 義広)

「The 13th International Conference on Broad-Band Wireless Computing, Communication and Applications(BWCCA-2018)」参加および発表

日時 2018年10月27日(土)～29日(月)
場所 台中(台湾)
参加者 教員3名(岡田 義広, 芳賀 瑛, 石 偉)

「EDUCAUSE Annual Conference 2018」参加

日時 2018年10月30日(火)～11月2日(金)
場所 デンバー(米国)
参加者 教員1名(岡田 義広)

「大学ICT推進協議会 2018年度 年次大会」ブース出展

日時 2018年11月19日(月)～21日(水)
場所 札幌コンベンションセンター
参加者 教員4名(岡田 義広, 大井 京, 芳賀 瑛, 石 偉)、テクニカルスタッフ1名(上野 敦子)



「Q-Conference 2018」ポスター発表

日時 2018年12月22日(土)
場所 九州大学
参加者 教員1名(岡田 義広)、テクニカルスタッフ1名(上野 敦子)



「人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2018)」参加

日 時 2018年12月1日(土)～2日(日)
場 所 東京大学
参加者 教員1名(岡田 義広)

「The 7-th International Conference on Emerging Internet, Data & Web Technologies (EIDWT-2019)」
参加および発表

日 時 2019年2月26日(火)～28日(木)
場 所 フジャイラ(UAE)
参加者 教員2名(岡田 義広、石 偉)

「歴博主催全体集会「資料がつなぐ大学と博物館」」参加および発表

日 時 2019年3月4日(月)
場 所 山形大学
参加者 教員1名(岡田 義広)

「情報処理学会第81回全国大会」参加および発表

日 時 2019年3月14日(木)～16日(土)
場 所 福岡大学
参加者 教員1名(岡田 義広)、学生3名

総会・委員会

「大学ICT推進協議会 2018年度 通常総会」出席

日 時 2018年5月17日(木)
場 所 東京ファッションタウンビル
参加者 教員1名(岡田 義広)

「大学学習資源コンソーシアム(CLR) 2018年度 総会」出席

日 時 2018年5月29日(火)
場 所 TKP東京駅 八重洲カンファレンスセンター
参加者 教員1名(岡田 義広)

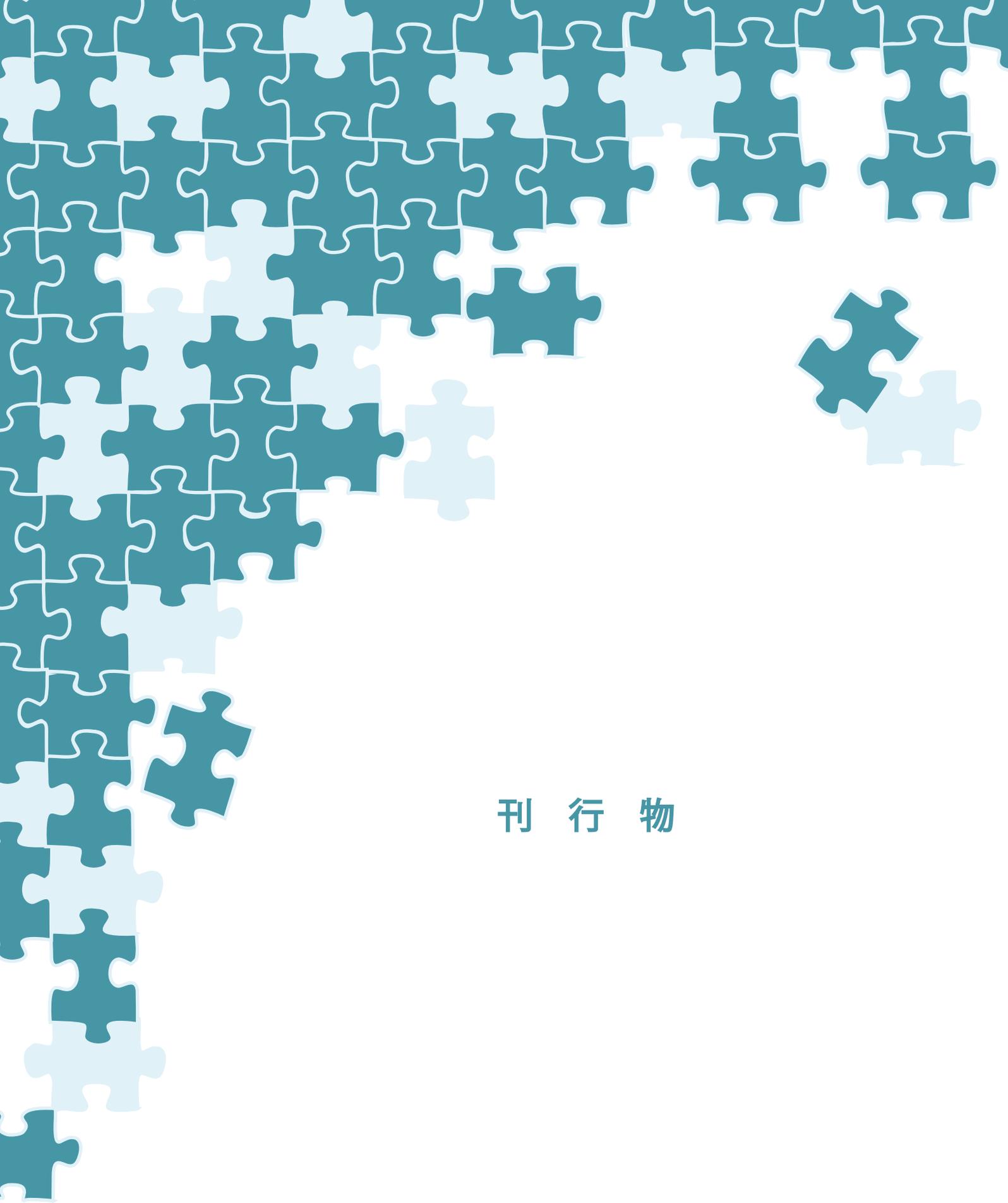
「日本オープンコースウェアコンソーシアム(JOCW)2018年度総会」出席

日 時 2018年7月24日(火)
場 所 北海道大学東京オフィス
参加者 教員1名(岡田 義広)

その他

セミナー「高等教育における著作物の利用促進とそれを支援する体制」出席

日 時 2019年3月18日(月)
場 所 千葉大学
参加者 教員1名(芳賀 瑛)



刊 行 物

ICER Newsletter

～九州大学附属図書館教材開発センターだより～

第32号
2018年4月発行



第33号
2018年6月発行



第34号
2018年8月発行



第35号
2018年10月発行



第36号
2018年12月発行



第37号
2019年2月発行



以下URLよりご覧いただけます

▼ICER Newsletter
www.icer.kyushu-u.ac.jp/pr

ICER 2018

九州大学附属図書館付設教材開発センター年報

編集：九州大学附属図書館付設教材開発センター

住所：〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL：092-802-6106 FAX：092-802-6109
E-mail：tokyozai@jimu.kyushu-u.ac.jp HP：www.icer.kyushu-u.ac.jp